

実習期間を長くすることが学修にもたらす効果

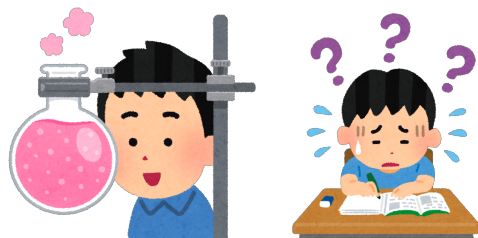
～生理学の知識の理解を確実にするために～

我が国の医学部の卒前教育では、正常人体の機能の理解のために、機能系実習というカリキュラムユニットが用意されています(従来または他大学では、生理学実習とも呼ばれる)。本学の機能系実習2では、医学部2年生が複数の実習項目(神経の興奮伝導、心臓の電気現象等)を数週間にわたり学修するスケジュールとなっています。これらの実習を通して、既存の「知識」の観察・実験・考察・報告を履修することは、将来、医学部学生が新しい「知」を創造するために、貴重な経験となります。

ただ、カリキュラムに割り当てられた時間(コマ数)は限られており、与えられた環境(時間、機器、スタッフ)の中で、学生に最大の学修効果をもたらすために、恒常的な改善・改変が必要となります。

今回、これまで(2018年度以前)は1つの実習項目を1日で完結していたスケジュールを、2日で完結するように改変しました(2019年度以降)。事後アンケートを比較したところ、2日スケジュールのアンケート結果の変動幅(標準偏差)が有意に低下しました。学生にとって、同じ量の学修内容をこれまで1日で学修していたのが2日となることで、理解に費やす時間が長くなり、学修内容が多くの学生により確実に浸透したことを示唆しています。今後の機能系実習2のカリキュラム編成にとって有意義な成果が得られたと考えられます。本成果は、Medical Science Educator誌に掲載されました(Published online 07 May 2022)。

各実習項目が
1日で完結すると。。



2日かけて
学修するようになると。。。

